



社会福祉法人

# 大村子供の家



## ONE TEAM

社会福祉法人 大村子供の家  
理事長 松本 厚生

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひします。

昨年はラグビーワールドカップ日本代表の活躍が話題となり、リーチ・マイケル主将の「ONE TEAM (ワンチーム)」という言葉が流行語大賞となりました。個別化や個人の自由が優先される時代に、あえてこの言葉が脚光を浴びたのも、改めてチームワークの重要性が見直されつつあるからだと思います。「チームの勝利のために様々なものを犠牲にしてきた」と語った選手たち。チームのために厭わない自己犠牲の精神と、下馬評を覆し強豪国を次々と倒していく姿が、多くの日本人の心を打ちました。

「ONE TEAM」の精神は子育てにおいても同じことが言えます。子育ては膨大な時間や労力を費やすもの。また決して一人ではできないものです。親族や地域社会、学校等の支えがあつて初めて子は育つものであり、大人が子どものために犠牲にしなければいけないことも当然あります。また本来、子育ては大人の犠牲を遥かに超える喜びや学び、そして希望があるものです。最近の日本ではチームでの子育てという意識が薄れてきた気がします。その結果が虐待報告件数の増加やモンスターペアレントの発生に繋がっているのではと憂慮しています。「周囲のことを考え、社会に貢献する子ども達を育てる」これが大村子供の家の使命であり、地域の方々と共にスクラムを組んで「ONE TEAM」で子育てに貢献していきたいと考えています。



うちのごはん(田川ホーム)  
こんにちは、分園型小規模グループケアの田川ホームです。田川ホームではいつも賑やかな小学生3名と、対照的にすぐ落ち着いている高校生が3名の合計6人の子どもたちが生活をしており、学校やアルバイトで慌ただしい毎日を送っています。今回はそんな田川ホームの食事を紹介します。

毎回、卵アレルギーの子の食事を別メニューで作ってくれたり、好き嫌いの多い子どもたちのことを考慮し、栄養バランスも考えてくださりながら、子どもや大人の私たちまで満足できるバラエティーに富んだ料理を作ってくれる調理の先生たち。子どもたちは毎日学校から帰ってくると真っ先に「今日のごはん何？」と聞きに來ますが、実は子どもたちだけでなく、私たち職員も調理の先生が作るご飯をととても楽しみにしています。皆、調理の先生のご飯が大好きで、宿題がまだ終わっていないのに「ご飯作り手伝う」と言い、お手伝いをする姿がよく見られます。今回のメニューは春巻きです。機関紙「きっずうえいぶ」に載せることを伝えると調理の先生方は恥ずかしそうにしていますが、その味はお墨付き。とてもおいしく、子ども達も食べることに夢中で三十分ほどで食べ終わり、満足気な表情でした。



## ヒューマンストーリー

「今を生きる」 ~柳原 久子~

2003年に放送された大村子供の家のドキュメンタリー番組「もう泣かない」を見て、お正月に家に帰ることのできない子がいることを知り、せめてその子たちにお年玉をと、それから毎年お金を送らせていただいています。それまでネパールなど海外の子どもに対する支援を行っていましたが、日本にもこのような境遇の子ども達がいることを知って驚きました。自分の幼少時代、決して裕福な家庭とは言えませんでした。正月は家族親戚が集まり、親たちからお年玉をもらう環境で育ち、それが当たり前だと思っていました。

父は建具職人、母は和裁を生業とし、3人姉妹の末っ子として大切に育てられました。魚を食べる時も親から骨やはらわたをすべて綺麗にとってもらい食べさせてもらっていたため、そのせいか70歳になった今でも骨のある魚は苦手です。両親とも家で仕事をしていたため、来客が絶えず賑やかな家庭でした。儲けを顧みずボランティア同然で知り合いの建具の修理をする父。そんな人の良い父を頼って仕事の合間にお茶を飲みに来る郵便局員や近所の人々。その都度仕事を中断し、黙々とお茶を出し来客対応する母。そんな調子で家計は一向に苦しかったのですが、どこか温かみのある場所でした。母はつらい時も家族を悲しませず、気丈に振る舞うような理想の母でした。とにかくみな旅行が好きで、お金がないにも関わらずよく家族旅行にでかけました。



大好きな京都仁和寺にて

成人し、事務や介護の仕事を経て、今はマイホームで年金暮らしをしています。今は自分のやりたいことをエンジョイしています。「太く短く今を生きる」のが私のモットー。我慢や後悔はしたくありません。気になったら即行動です。寺社仏閣を巡る旅行や園芸ボランティアなどに出かけ、生活は質素で構いませんが、自分が思ったことはすぐ実行できる時間と心の余裕を持つようにしています。子ども達にも変な我慢をさせなくていい。ポップコーン器やイルミネーション機材を子供の家の子ども達に寄贈したのもそのような思いからです。

生まれも育ちも群馬で、一度も大村子供の家を訪れたことはありませんが、佐世保に数日滞在し、長崎空港から羽田に戻ったことはあり、いつかそと子供の家のぞきに行ってみたくです。

元気だけがとりえだった私が、最近怪我をしてつくづく思うことですが、人生いつ何が起るか分かりません。後悔のないように「今」を楽しく元気に生きたいと思います。

## 行事予定

- 1月・・・大村子供の家新年祝賀会、正月遊び、成人の日、私立高校入試
- 2月・・・節分、b & g 研修会
- 3月・・・大村子供の家就職・進学者激励会、送別会、卒業生送別旅行、お寺参り、公立高校入試、キッズホーム・ランド卒園式



## 編集後記

2020年はゴロが良く、東京オリンピックが開催される記念すべき年です。干支は子(ねずみ)年。12支のトップバッターで新しい12年がまた始まります。そして何といても令和初のお正月。なんだかワクワクしてきます。今年もいいスタートをきり、楽しく充実した形で1年のゴールを迎えることができるよう、1日1日を大切に過ごしていきたいと思ひます。KM

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町591番地2  
TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661





11月2、3日と五島列島 野崎島へ1泊2日の宿泊体験を行いました。島には野生の日本鹿が生息しており、鹿を見てはじめは子ども達も興奮していましたが、島のいたるところにいる鹿に慣れ、30分もすると「もう見飽きた」とこぼす子どもたち。朝9時に大村を出発して電車やフェリーで野崎島に到着したのは午後2時頃、到着後さすがに子ども達は疲れた表情をしていましたが、漁港で釣りを始めると早速アジが入れ食い状態！先ほどまでの疲れはどこへやら、晩御飯のおかずの1品にしては多すぎるほど大漁でした。夏休みにも近くの海で釣りをしましたが、野崎島は海が綺麗で魚影が良く見え子どももスタッフも釣りを楽しんでいる姿が印象的でした。

釣りに満足しきった後は宿泊所の自然学塾村へ。廃校になった小中学校を改装して宿泊施設として利用している所です。夕食はカレーと釣った魚のフライ。「やっぱり自分で釣った魚はおいしい」「これ俺が釣ったやつ」と言いながらパクパク食べていました。

夜は明日に備え早めの就寝、2日目はまず島内にある世界遺産に登録された教会を見学に行きました。初めて教会に入る子、熱心に潜伏キリシタンについての説明をメモする子など知見を広めるのに一生懸命の様子。その後は芝生広場で各々自由に遊び、島の大自然を堪能し帰路につきました。



今回 b & g として3度目の旅行でしたが当初心配していたよりも親元を離れることに対して不安を持つ子どもは減り、食事の準備や掃除のお手伝いを率先して行える子が増える等精神的に成長している様子が見えとても頼もしく感じました。

## 認定こども園キッズランド



10月

10月26日(土)富の原小学校の体育館でキッズランド初の運動会を開催しました。うまくいかと当日まで不安はありましたが、多くのご家族からの温かいご声援をいただき、子ども達は練習した成果を十分に発揮してくれました。子どもたちの晴れ姿かっこよかったです。

11月

11月、園内で育てたサツマイモをみんなで収穫し、後日園庭で焼き芋会を行いました。思ったよりも上出来で、「あつあつ ほっかほっか やきイモはおいしい〜ヨ！」と子ども達も大喜びでした。また同月、クッキー作りを行い、いろいろな形のクッキーをいただきました。

12月

12月20日にクリスマス会を行い、少しせっかちであわてんぼうのサンタさんが、子ども達にプレゼントを届けに来てくれました。また、21日には、餅つき体験を行いました。



## 児童養護施設 大村子供の家

### 第五回 大村子供の家秋祭りの開催

今年から認定こども園キッズランドと b & g おおむらの子ども達が新たに加わり、11月16日土曜日に法人全体の秋祭りが晴天の中開催されました。園田大村市長様をはじめ、児童相談所や学校の先生方が参加してくださり、ダンスや演劇など子ども達の晴れ姿を見ていただきました。今回はプロの和太鼓集団、瑞宝太鼓の皆様にご参加いただき、迫力のある太鼓の生演奏を披露していただきました。



### トリック オア トリート! ハロウィンのお化けたち

中尾ホームの子どもたちは一週間ほど前から「何の仮装にしようか…?」「メイクはどうしようか…?」「髪の毛はどうしよう…?」とワクワクしながら過ごしていました。そうです、ハロウィンです。



お菓子をもらえるまで粘り、もらえたらあっさり立ち去るお化けたち(恐ろしや~)

当日は、ホームの一番お姉さんJちゃんが、年下の子どもたちのメイクを担当してくれました。プロのメイクさんのように子どもたちを怖かわくわくしてくれました。こんな特技があったとは!と新たな発見。仮装・髪の毛のセット・メイク全てを完璧にし、他ホームや知人宅を訪問し、沢山お菓子を頂いたのに加え、仮装が可愛いと言われた事がとっても嬉しかったみたいです。また、子どもたちの仮装を見て笑顔になった皆さん。ホームの子どもたちが、大人になった時には貰うばかりではなく、色々な人と繋がりを持ち、誰かに与える側になって欲しいと思います。中尾ホームのハロウィンに関わって下さった方々に感謝です。

### 小規模保育園キッズホーム

11月16日に開催された法人秋祭りで、キッズホームの子ども達は上手に「パプリカ」や「いないいないばあ」を踊ってくれました。毎年、出し物のトップバッターを任せられることが多く、緊張のせいかステージの上で泣き出してしまうお友達がいまいましたが、今回はみんな涙を流すことなく、終始ニコニコ元気に歌って踊ることができました。



来年は何を歌って踊ってくれるのでしょうか。気が早いですが、子ども達の健やかな成長と来年の出し物での活躍を楽しみにしています。

### オスの子ヤギ メリーの今



6月に子供の家で誕生し、9月に諫早市飯盛町の里親(子供の家職員中村宅)へお引越したオスの子ヤギはメリーと名付けられ、様々な葉物や米ぬかを食べてのびのび走り、時には踏み台に乗り遊んでいます。

一匹なので寂しくメーメーと鳴き、可哀そうな時もありますが、「メリー」と呼んであげると嬉しくしっぽを振り走ってきて、日々可愛さが増しています。オスのメリーに早く可愛いメスのヤギが訪れてくれる日を首長く待っているような気がします。皆様メリーの成長を見に是非遊びにいらしてください。

